



第114号  
 発行所 上高井教育会  
 発行人 上高井教育会長  
 堀内文夫  
 編集人 会報編集委員  
 西原和幸  
 印刷所 須坂新聞社

# 将来的な展望に立って

教育の進むべき道・教師のあり方を考えよう

## 第十回教育懇談会開催される

第十回上高井教育懇談会は「①教育実践の悩みを語りながら、実践を深めるための研修のあり方を考える。②現下教育上の問題点（非行・登校拒否・いじめ等）とその背景を明らかにし、教師のあり方を考える」のテーマのもとに五〇数名が集まり、堀内会長先生の「二十一世紀を志向して、教育の現代化・活性化をはかるために教師はどうあるべきかを考え、語り合い、今日の会が、すばらしい出会いになるようにしよう。」の開会の挨拶で始まった。

各分散会では発表者から実践上の悩みや問題点が出され、それを基に参加された先生方の苦勞・方策等が率直に語られた。時代を反映した教育上の問題点が山積みされた中での実践の毎日、同じ悩みを語る中で、ひとりひとりの子供を大事に考え、指導していこうという教育愛・使命感に燃えた先生方の熱い語り方が印象に残ったひとときであった。（記―島田）

# 学級経営の難しさ

木下 息

彼等とのつきあいが始まってから二年四ヶ月が過ぎようとしている。明るくまとまりのあるすばらしいクラスだと安心して担任の気持をもつての事件が起きた。

彼等とのつきあいが始まってから二年四ヶ月が過ぎようとしている。明るくまとまりのあるすばらしいクラスだと安心して担任の気持をもつての事件が起きた。比較的消極的で自己主張も

ンすること、忘れることしか私にはできない。このクラスには相談に乗ってくれる本当の友達が私にはいない。

できること、忘れることしか私にはできない。このクラスには相談に乗ってくれる本当の友達が私にはいない。



できない自分反省する。大切さを痛感している。

激しいパニック状態におちい

# 教育懇談会発表内容の要約 A君と担任のかかわりから

山岸深志

昨年四月に四年生のこの学級の担任となった。幼さは残るが、明るく素直な子どもたちであった。そんな中で、やがてA君の姿が目につくようになってきた。話し合いなどでも絶対自分の主張をゆがらず、また他人の悪口やけんかが多く、学級の中でも孤立しがちな子どもであった。いつも一緒に遊ぶとなると、B君一人である。担任としては

何とかA君が四年生としての自覚を持ち、学級の友だちと協調していけるようにと願った。そこでなるべくA君の良い点を認め自信を持たせるとともに、班長や学校行事の責任者の仕事をやらせ、友だちとの協力の大切さをわからせるようにしてきた。

二学期の終わりには落ち着きも見られ、友だちとの人間関係も良くなってきたように

# 母と子を結ぶもの

酒井万由美

K児は三人姉妹のまん中、母親が言うには「育てるのに手がかからなかった良い子」であった。一年生の女の子の中では一番活動的でした。好き、たくましい生活力をも感じさせたK児だった。

二年に進級して間もなく、悪性の便秘で入院という体験を経たK児は、それを機に、登校をしぶり始めた。はじめの週は、車で迎えに行ったり、母親がバイクで送り迎えをしたりして、どうにか登校させることが出来たが、日を重ねるにつれ、K児の抵抗が大きくなった。家庭では母親から一時も離れず「おっぱいちょうだい」とねだるK児。そして母のちよつとした言動に傷つき

# 懇談抄

## 第一分散会

司会 町田 徳 (井上小)  
 発表 山岸深志 (日滝小)  
 助言者 森山明治常任委員 (森上小)

出席者  
 下川光子 (小山小)  
 木村忠美 (森上小)  
 関千恵子 (日野小)  
 碓井明美 (旭ヶ丘小)  
 北原譲二 (高山小)  
 前沢伸一 (豊丘小)  
 小林文雄 (栗ヶ丘小)  
 成田 茂 (須坂小)  
 涌井二夫 (日滝小)  
 越 徳子 (東 中)  
 花形敏郎 (墨坂中)  
 小林勝子 (相森中)  
 山岸敏明 (常盤中)  
 北堀 宏 (高山中)

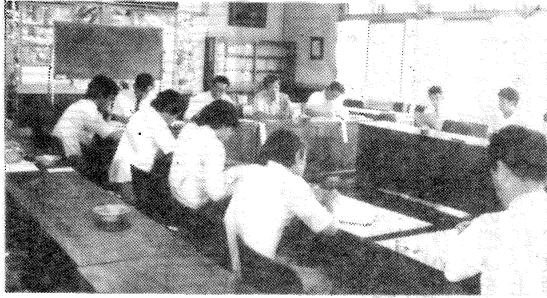
どのクラスにも一人はいるタイプの子ども——「わがままで、他人とのトラブルの絶えない」A君の軌跡を追ったレポートから、次のような意見が出された。

一、学級集団の自浄効果を生かす。

(1)問題児には学級集団の支えが大事である。そのためには、先生と子どものつながりが大事である。

(2)「まじめさをバカにしない」「悪いことを許さない」学級集団作りが大事だ。

(3)個を生かすことが集団を高めることにつながっている。



(記)横山

二、子どもに対する教師の見方、処し方の固定化を避け、心に添った指導を心がけてゆく。

(1)能力の高い問題児の場合勉強の面以外の場面(作業や清掃等)での評価が欠けてしまいがちである。

(2)教師サイドの一方的で負いの勝った叱咤はマイナスである。

(3)教師はカウンセリングマインドを身につける必要がある。つまり、先生が子どもと一緒にやって——心をそそいで考え、行動することが。

三、家庭との連絡を緊密にとる。

(1)学級通信等を大いに利用したい。

(記)横山

## 第二分散会

司会 小池 勝雄 (相森中)  
 発表 酒井万由美 (仁礼小)  
 助言者 赤堀昭三常任委員 (常盤中)

出席者  
 寺島千代子 (高甫小)  
 帯川恵美子 (須坂小)  
 千葉 弓子 (日滝小)  
 根橋 健治 (井上小)  
 竹内 君則 (小山小)  
 角田登貴江 (森上小)  
 塩原 義郎 (仁礼小)  
 横山 圭二 (高山小)  
 堀米 富平 (豊洲小)  
 樋口 邦夫 (旭ヶ丘小)  
 宮前 日王 (日野小)  
 児玉 淳子 (小布施中)  
 岩瀬 寛子 (常盤中)

三、家庭との連絡を緊密にとる。

(1)学級通信等を大いに利用したい。

出席者  
 藤原明美 (高山小)  
 熊井美津子 (豊洲小)  
 渡辺綾子 (高甫小)  
 町田友子 (栗ヶ丘小)  
 佐藤一義 (須坂小)  
 小林 裕 (森上小)  
 滝沢忠男 (日滝小)  
 依田 章 (小山小)  
 小平知行 (高山中)  
 小林幹知 (相森中)  
 横山宣昭 (小布施中)  
 山崎 巖 (東 中)  
 三溝清男常任委員 (井上小)  
 田中 稔幹事 (高山小)  
 黒岩英雄代議員会議長 (仁礼小)

## 持田 和男 (墨坂中)

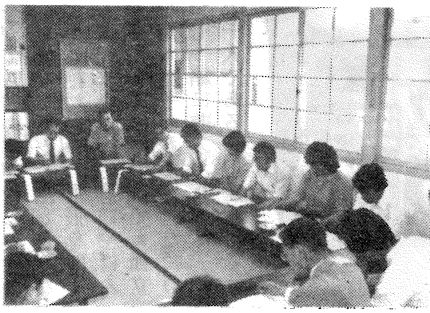
越 正行 (東 中)  
 小林義雄常任委員 (小山小)  
 米川昭司常任委員 (相森中)

一、実践の悩みを語る中から基本的な生活習慣のついていない子の指導。専科担任として、子どもたちどう心をつないでいったらよいか。毎日、生徒指導に四苦八苦している。教師にとっては繰り返してあることでも子どもにとっては皆初めての経験であることを忘れがち。忙しい毎日の中でひとりひとりを大事にしたいのではないのか。上高井の実践の水準は高いが、ユニークな実践が少ないのではないかと等、語られた。

二、現下教育上の問題点  
 仁礼小の酒井先生から、登校拒否傾向を示したK・N児の事例が詳しく発表され、それを基に、同様な経験や意見が出され、助言があった。

K児が七年間育ってきた背景、母親の養育態度等に問題があるのではないかと。発言に即した成育の過程がなされていなかった。担任が家庭の中に入ってみたのはすばらしい。担任が不安定になると、子どもも不安定になる。親が協力的な場合、よくなるケースが多い。

子どもの心の裏にあるものをもとりたい。子どもの位置からみるとゆとりが出る。墨中



発表者(中学三年担任)から学級経営上の悩みとその実践が発表された。

学級経営上の悩みとしては提出物が遅れる。私語が多い。女子の人間関係が表面的である。そこで、生活記録を工夫し、週目標の樹立と生活の評価をさせて励ました。また、

ある女生徒の悩みが学級指導の中で作文で訴えクラスがまとまってきた等の実践内容であった。

その発表をもとにいろいろの悩みや実践が話し合われた。学習以外の私語が多い。つめをかむ子。女生徒の仲良しグループ。低学年の性教育等をどのよう指導したらよいかの悩みが出された。

それに対して、クラスのポイントを見つめ励ます。子どもにいろいろな生活体験をさせて自信を持たせる。基本的な生活習慣を低学年から行動を通して身につけさせていくなど、具体的な子どもの姿で発表された。

助言者からは、子どもの変わってきている姿をとらえたり、変えているものは何か、つまり、変えていく要因は何かをさぐ

第十回教育懇談会特集号をお届けします。

日々の教育実践の中でぶつかるさまざまな問題。その問題にひとり悩んでいる先生が多いのではないのでしょうか。教育懇談会で語られたことを基に、子どもたちにとってよりよい方向を見出したいものです。当日、基調提案をなされ忙しい中、原稿を間に合わせて下さった先生方、ありがとうございました。

## 編集後記

では、半数くらい二人担任制。みとれない部分をみとるのがみとりである。(記)望月

